

(その三)

| | |
|------------|----------------------|
| 工場又は事業場の名称 | JNC石油化学株式会社 市原製造所 |
|------------|----------------------|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 3 9 | 5 2 | 5 3 | 5 4 | | | | | | |

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

ポリプロピレン製造施設3系列のうち、2系列はノルマルヘキサンを使用しない気相法、1系列はノルマルヘキサンを溶媒とする重合方法の液相法であったが、2021年に液相法の1系列を廃止しノルマルヘキサンの削減を達成できた。また、更なるノルマルヘキサンの削減への取組みを継続している。

(その三)

| | |
|------------|-----------------|
| 工場又は事業場の名称 | デンカ株式会社 千葉工場 |
|------------|-----------------|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 1 9 | 3 1 | 3 9 | 4 1 | 4 9 | 5 1 | 5 2 | 5 3 | 5 6 | |

その他（1 9， 2 9， 3 9， 4 9， 5 9， 9 9）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 【対策 1】 について |
| ・塩ビテープの粘着剤の溶剤をトルエンから水系エマルジョンへ変更しました。 |
| 【対策 3】 について |
| ・スチレン系樹脂（AS樹脂、MBS樹脂等）の製造プロセスを、バッチ重合法からVOC排出量の少ない連続重合法へ転換しました。 |
| 【対策 5】 について |
| ・メタクリル酸メチルおよびアクリロニトリルの屋外タンクに、蒸気の船戻し配管を設置し、船受入れ時の大気放出を削減しました。 |

(その三)

| | |
|------------|-----------------------|
| 工場又は事業場の名称 | 大阪国際石油精製株式会社 千葉製油所 |
|------------|-----------------------|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせで実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策1 | 対策2 | 対策3 | 対策4 | 対策5 | 対策6 | 対策7 | 対策8 | 対策9 | 対策10 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 5 | 2 | | | | | | | | |

その他(19、29、39、49、59、99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|--|
| 対策1 について |
| ・ 充てん出荷施設に設置稼働している炭化水素回収装置(VRS)を適切に 運転調整し、回収率を高めました。 |
| ・ VRSの回収率目標85%以上に対して、令和4年度実績は適正な管理を 行なった結果95%を維持しました。 |
| ・ 原油処理量が計画値を下回ったことも排出量低下の要因となりました。 |
| |
| |
| |

(その四)

| | |
|------------|-----------------------|
| 工場又は事業場の名称 | 大阪国際石油精製株式会社 千葉製油所 |
|------------|-----------------------|

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|-----|------------------------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 平成21年度以前 | 平成22年度 | 平成23年度以降 |
| (A) | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。) | 削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) | 計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) |
| C | 目標年度の目標達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

| |
|--|
| ・炭化水素回収装置(VRS)の吸収溶液循環量の適正管理により目標年度の達成値を順調に維持しています。 |
| ・石油製品の出荷設備(炭化水素回収装置)の運転調整を適切に行いました。 |
| ・一方、原油処理量が計画値を下回ったことも排出等の量低下の要因となりました。 |
| |
| |
| |
| |

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

| | |
|------------|---------------------|
| 工場又は事業場の名称 | 日本リファイン株式会社 千葉工場 |
|------------|---------------------|

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|----|------------------------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 令和2年度以前 | 令和3年度 | 令和4年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。) | 削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) | 計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

| |
|---|
| 高沸点溶剤の取扱いの割合を増やすことで、削減できると計画していたが、実績でも、高沸点溶剤が増加し、低沸点溶剤が減少したため、排出量の削減になった。 今後も高沸点溶剤の割合を増やし、一つの生産を大口化することを目標としていく。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

| | |
|------------|----------------------|
| 工場又は事業場の名称 | ティー・エム・ターミナル(株)市原事業所 |
|------------|----------------------|

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|----|------------------------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 平成21年度以前 | 平成22年度 | 平成23年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。) | 削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) | 計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

| |
|---|
| <課題と対策> |
| ・TA-303タンク(1000KL以上)については、炭化水素回収装置に接続されており、排出ガスの99%を回収しているが、削減率については基準年度(H12年)と比較した場合、顧客の要望によりVOC対象品目の取扱いが大幅に増えており基準年度の排出量を達成することは困難となっている。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| | |
|------------|-----------------------|
| 工場又は事業場の名称 | UBEエラストマー株式会社 千葉工場 |
|------------|-----------------------|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策1 | | 対策2 | | 対策3 | | 対策4 | | 対策5 | | 対策6 | | 対策7 | | 対策8 | | 対策9 | | 対策10 | |
|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|--|-----|--|-----|--|-----|--|------|--|
| 2 | 9 | 3 | 9 | 5 | 1 | 5 | 4 | 9 | 1 | | | | | | | | | | |

その他 (19、29、39、49、59、99) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|---|
| 対策1について |
| ・昨年度に引き続き、脱臭入口VOC濃度を測定し4系列の負荷調整を行うと共に、廃ガス処理温度と脱着/吸着サイクルの管理を徹底させ、脱臭塔出口からのVOC物質の放出量を削減する。また、別系統のRHガスは脱臭装置送り禁止を継続する。 |
| ・脱臭装置ガスクロを増強し、監視を強化する。 |
| |
| 対策2について |
| ・ポンプ更改等によりシール部からの微量漏れのは是正を継続的に進めていく。 |
| |
| |
| |

(その四)

| | |
|------------|-----------------------|
| 工場又は事業場の名称 | UBEエラストマー株式会社 千葉工場 |
|------------|-----------------------|

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|----|------------------------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 平成21年度以前 | 平成22年度 | 平成23年度以降 |
| ○A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。) | 削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) | 計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) |
| C | 目標年度の目標達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

| |
|--|
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

| | |
|------------|--------------------|
| 工場又は事業場の名称 | 丸善石油化学株式会社 千葉工場 |
|------------|--------------------|

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|----|------------------------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 平成21年度以前 | 平成22年度 | 平成23年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。) | 削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) | 計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) |
| C | 目標年度の目標達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

| |
|-------------------------------------|
| ・貯蔵施設の呼吸ロスによる排出量は生産量の増減が大きく影響しています。 |
| ・装置からの排出は適正運転の継続により横ばいを維持しております。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| | |
|------------|----------------|
| 工場又は事業場の名称 | 東レ株式会社 千葉工場 |
|------------|----------------|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策1 | 対策2 | 対策3 | 対策4 | 対策5 | 対策6 | 対策7 | 対策8 | 対策9 | 対策10 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 4 1 | 4 9 | 5 1 | 5 6 | | | | | | |

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|--|
| 1. 対策1 (記号41) について |
| 第9期P R T R対象物質削減対策設備として、アクリロニトリル浜貯槽に、内部浮屋根式タンクへの改造工事を実施【R2年2月19日事前協議書提出受理済】 |
| 2. 対策2 (記号49) について |
| アクリロニトリル浜貯槽設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け-20℃に冷却して、アクリロニトリルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。(コンデンサーはバックアップ用として残している) |
| メタクリル酸メチル浜貯槽設置時、タンクベントにコンデンサーを取り付け-20℃に冷却して、メタクリル酸メチルの蒸気を凝縮させてタンクへ戻している。 |
| 3. 対策3 (記号51) について |
| 第7期P R T R対象物質削減対策設備(シリカゲル吸着装置) |
| 第10期P R T R対象物質削減対策設備(シリカゲル吸着塔設置)設置【R2年2月19日事前協議書提出受理済】 |
| 4. 対策4 (記号56) について |
| 第8期P R T R対策設備削減対策設備(3塔式蓄熱燃焼炉) |
| 第11期P R T R対策設備削減対策設備(3塔式蓄熱燃焼炉)設置【R2年2月19日事前協議書提出受理済】 |

(その四)

| | |
|------------|------------|
| 工場又は事業場の名称 | 京葉モノマー株式会社 |
|------------|------------|

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|----|------------------------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 平成21年度以前 | 平成22年度 | 平成23年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。) | 削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) | 計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) |
| C | 目標年度の目標達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

| |
|---|
| 1. 装置トラブル発生時の機器開放等があると排出量増加につながるため、装置トラブルの減少が課題である。 |
| 令和4年度は装置トラブルもなく連続運転を実施できたため、排出量を抑えられた。 |
| 2. 各所から放出されるベントガスを吸引し廃棄物焼却炉で焼却しており、吸引配管の清掃を定期的に行う。 |
| 3. 廃棄物焼却炉の清掃時はベントガスが空放されるため、廃棄物焼却炉の清掃期間をできるだけ短くする。 |
| |
| |
| |

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| | |
|------------|-------------------|
| 工場又は事業場の名称 | 出光興産株式会社 千葉事業所 |
|------------|-------------------|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 | | | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|---|---|--|--|--|--|--|--|--|
| 3 | 1 | 3 | 9 | 4 | 1 | 5 | 1 | 5 | 2 | 5 | 9 | | | | | | | |

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| (対策39について) |
| 従来、粗ベンゼンは弊社他事業所へ船転送し処理していたが、平成13年6月以降、当事業所内処理に内製化することで海上出荷に伴うVOC排出量を削減した。 |
| (対策59について) |
| 平成26年度～28年度にかけ、一部の製造装置を停止、廃止したことによりVOC大気排出量は、基準年の排出量から90%以上の削減量となった。 |
| (対策31の補足説明) |
| 平成21年度はポンプ軸封からの飛散を減少させるために、軸封の改善を実施した。 |
| (対策41の補足説明) |
| タンク等揮発性有機化合物は浮屋根式タンク又は内部浮屋根式タンクに貯蔵し、貯蔵に伴うVOC排出量を削減した。 |
| (対策51の補足説明) |
| 排出ガス中の揮発性有機化合物を吸着回収する設備の設置等により大気中への排出量を減少してきた。 |
| (対策52の補足説明) |
| タンクローリー充填・出荷施設にはVOC回収設備を設置し、VOC回収率90%以上の高回収率運転を行い、タンクローリー充填・出荷に伴うVOC排出量を削減した。 |

(その三)

| | |
|------------|-------------------|
| 工場又は事業場の名称 | 星光PMC株式会社 千葉工場 |
|------------|-------------------|

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせ実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策1 | 対策2 | 対策3 | 対策4 | 対策5 | 対策6 | 対策7 | 対策8 | 対策9 | 対策10 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 3 9 | 5 2 | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ | ∴ |

その他(19、29、39、49、59、99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

| |
|------------------------------------|
| 対策1について |
| 39: ISO14001 VOC削減計画の実行 |
| タンクローリー車で屋外タンクに原料を納入する時、均圧管を設置し対応。 |
| また、屋外タンクの外部から散水し、タンク内部の液温上昇を防いでいる。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

(その四)

| | |
|------------|-----------------|
| 工場又は事業場の名称 | DIC株式会社 千葉工場 |
|------------|-----------------|

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|----|------------------------------------|-------------------------|----------------------------|
| | 平成21年度以前 | 平成22年度 | 平成23年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。) | 削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) | 計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。) |
| C | 目標年度の目標達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

| |
|--|
| ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- |
|--|

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。